

目的 家庭洗濯において、多くの人々は手で洗濯物の乾湿を判断して取り込んでいるが、布地の乾湿感の判断基準はそれぞれ異っており、環境条件、手部皮膚温、個人の主観、布地の種類などにより変化すると考えられる。本研究では、洗濯物の吸湿量と乾湿感の関係について、環境温度、布地の温湿度および種類との関連において検討した。

方法 布地は綿(天竺, ブロード, ネル), 綿混紡, 毛(モスリン, サージ, フラノ)など10種類を精製して用いた。布地の温度は10および20℃, 吸湿率は8段階とし、各塩類の飽和水溶液蒸気中で調湿した。環境条件は人工気候室および恒温実験室を使用し、室温10および20℃, 相対湿度 $58 \pm 5\%$ とした。被検者は成人女子(21~26才)5名とし、試験環境において椅座安静位で前額および大腿前面の平均皮膚温が29~33℃であることを確認しながら、手指末節前面, 手掌, 手背皮膚温が平衡に達した後、官能検査を行った。布地の乾湿感は3段階評定(湿っている, 分からない, 乾いている)とし、被検者は仕切りをして視覚の影響を取り除いた中で、一定時間布地を両手で触った後、口頭で回答した。1回の検査において布地の温度は一定としたが、提示する布地の種類および吸湿率の順は被検者間でランダムとした。

結果 いずれの条件においても、布地の吸湿率と乾湿感の間に有意差が認められた。布地の種類による乾湿感の差は、手部皮膚温が高い場合は認められたが、手部皮膚温と布地温度ともに低い場合は小であった。布地温度が低い場合は、高温時に比べて、低吸湿率の布地においても湿っていると判断する傾向を示した。